

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙3章1~13節>

① 1~2節 パウロが選ばれたのは、私たち（異邦人）のため！

パウロは3章の出だしで、「あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロは」(1)、「あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について」(2)と、神様は自分を異邦人のために用いられたのだ、と強調します。それは、ユダヤ人と異邦人の関係を考えると驚かされることだからですが、パウロはその務めに神様からの「恵み」を覚えています。どういうことでしょうか？

② 3~6節 パウロによって知らされる神様の壮大な救いの御計画！

「初めに手短かに書いたように、秘められた計画」(3)は、1章の3節から語っている神様の「秘められた計画」(1:9)のことです。それは一言で言い表すなら、神様が全てのものを「キリストのもとに（において）」(1:10)一つにされる計画です。このことはペテロら使徒たちにまず啓示されましたが、神様はそれをイエス様の弟子たちを追い回していたパウロにもダマスコ途上で啓示されたのです（使徒言行録9章、ガラテヤ1章11節以下。「啓示される」：覆いを取る）。パウロはそのことにまず驚きましたが、その意味が分かって来た時に、それは大きな喜び、新しい生きる力、生きる意味になったのです！

③ 7~9節 神様の「力」に生かされて今在る自分を知る「恵み」。信仰者の幸いは、この「恵み」を覚えて生きられる幸い！

「神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。この恵みは、聖なる者たちすべての中で最もつまらない者であるわたしに与えられました」(7-8)。「力」：デュナミス、ダイナミイトの語源)。パウロは、壮大な計画をなされた神の「力」が自分にも及んでいることを知り、そこに「恵み」を見出したのです！ここで自分のことを「最もつまらない者」と表現しています。思い違いをしてイエス様の弟子たちを迫害していた自分のことを考えているでしょう。しかし、その自分が赦されて、福音の宣教のために用いられていることに、パウロは大きな恵みを覚えているのです！この隣れみに富み給う神様の存在を知らされた恵み。キリスト教信仰の大きな恵みです。しっかり捉えて、感謝して生きる者になりましょう！